

子どもと健康

令和5年11月（第290号）

子どもの健康を考える会

今回は、「ワクチンについて」 などこどもとアレルギーのクリニック 院長 名田 匡利先生よりご指導をいただきました。

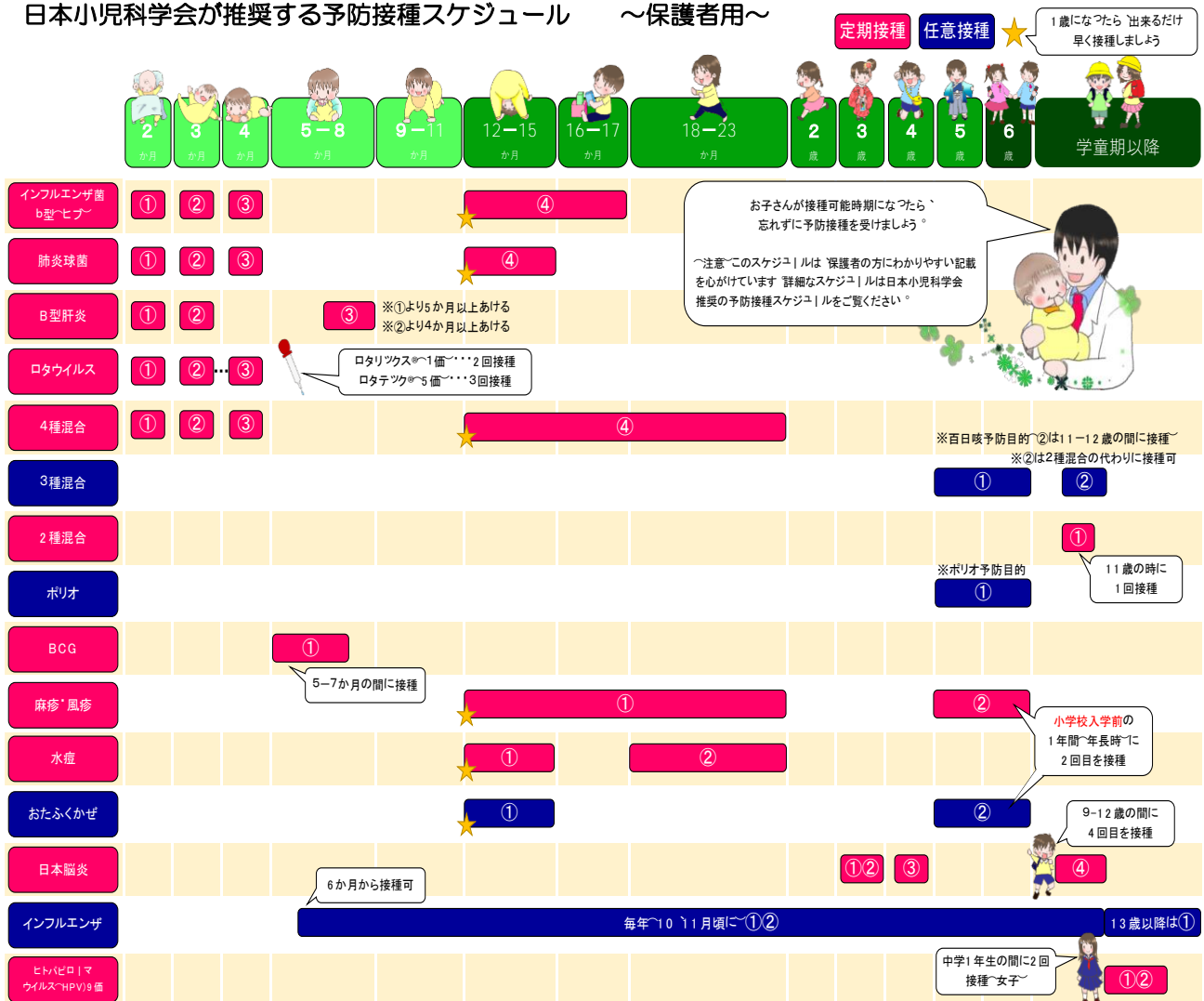
~~~~~ 『就学前に三種混合ワクチンを接種しましょう！』 ~~~~~

## 《 三種混合ワクチンの追加接種の意義 》

- 1 年長児から成人で百日咳にかかるのを予防すること
  - 2 追加接種により患者を減らすことで、致死率の高い生後3か月未満の赤ちゃんへの感染を予防すること
- <日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール>

日本小児科学会では、就学前のお子さんの百日咳抗体価が低下している状況を考慮して、就学前（5～7歳未満）に三種混合（百日咳、破傷風、ジフテリア）ワクチンの追加接種を推奨しています。また、百日咳の予防のために11～12歳での定期接種である二種混合（破傷風、ジフテリア）ワクチンの代わりに、三種混合ワクチンを接種しても良いこととしています。ポリオについても、抗体価が低下する前の就学前（5～7歳未満）での接種を推奨しています。ただし、これらはいずれも残念ながら任意接種となります。

## 日本小児科学会が推奨する予防接種スケジュール ～保護者用～



## 《 百日咳について 》

百日咳菌という細菌に感染することで起こる病気です。赤ちゃんにとって、命にかかわるとても危険な病気です。顔を真っ赤にして激しく咳き込み、息が吸えなくなったり、息が止まってしまうこともあります。

新型コロナウイルス流行前の2019年の百日咳症例の年齢分布をみると、ワクチン未接種の0歳児と6～13歳に集中しており、また親世代となる30～40歳台も多いことがわかります。そして、残念なことに6～13歳の患者のほとんどは、しっかり定期接種の百日咳含有ワクチンを4回接種完了している子です。この原因は、百日咳含有ワクチンの免疫効果が4～12年で減衰すること等が指摘されています。そこで先進国では、乳児期の3-4回の接種後に、4～6歳で1回、10歳代もしくは成人で1回追加接種しています。

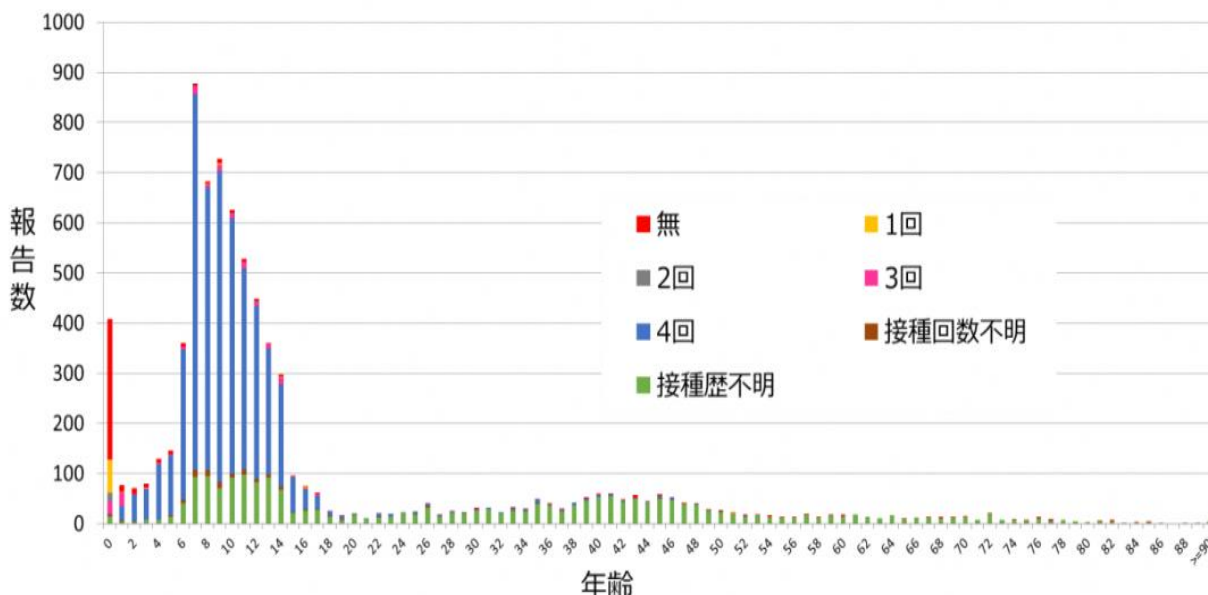


図1. 百日咳症例の年齢分布と予防接種歴（2019年第1週～第26週）（n=7,611\*）

\*百日咳 感染症法に基づく医師届出ガイドライン（初版）に則った症例に限定

国立感染症研究所 感染症疫学センター・同細菌第二部：全数報告サーベイランスによる  
国内の百日咳報告患者の疫学（更新情報）2019年疫学週1週～26週 2019年7月3日現在

なだこどもとアレルギーのクリニック 名田 匡利

岐阜市役所 子ども保育課

TEL：214-7825（ダイヤルイン）

FAX：262-1121

Eメール：hoiku@city.gifu.gifu.jp

